

逗子の景観まちづくり

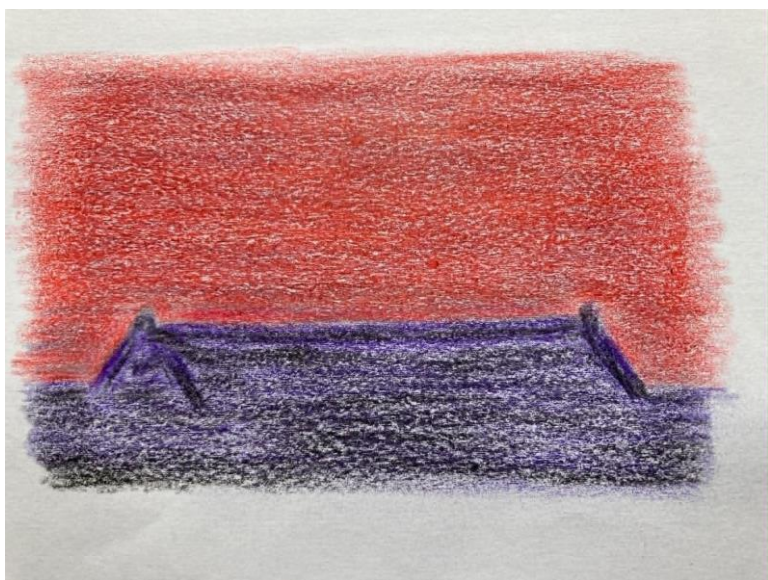
瓦版 第九十二号

空襲の記憶

私は1942年に今の逗子市沼間に生まれました。

1945年に東京をはじめ全国の主要都市でアメリカ軍のB29爆撃機による空襲がありました。

この近くでは、東京大空襲、横浜大空襲があ



空襲時の沼間の夜空

二〇二六年十月十五日 次号は一月発行予定
編集 逗子市環境都市部まちづくり景観課
協力 逗子の文化をつなぎ広め深める会
募集 逗子の景観スケッチや六百五十文字以内の
景観に関するコラム等を募集しています。

二四九・八六八六
逗子市逗子五丁目二番十六号
「逗子市まちづくり景観課 瓦版係」
電話 〇四六・八七三・一一一一
ファックス 〇四六・八七三・四五二〇
machi@city.zushi.lg.jp

りました。焼夷弾により一面が火の海になりました。当時、3歳の私の脳裏にはその時の様子がはっきりと記憶されています。以下はその時の記憶です。日時は覚えていませんが、夜ラジオから「空襲警報発令」の声を聴きました。当時、ラジオからは頻繁に「空襲警報」が発令されていましたので、ラジオはつけっぱなしにしていたと思います。その声を聴いてすぐ家族で部屋の電気傘に備えていた袋を被せ、灯りが外に漏れないようにして、防空頭巾をかぶり、直ぐ近くの山に掘られていた防空壕に逃げ込みました。その時、空を見ると空一面が真っ赤になっていて、特に北の方角の空がより赤くなっていたのを記憶しています。昼間には、B29が編隊を組んで飛んでいるのを見たことも記憶にあります。幸い逗子の被害は少なかったようですが、家の物置小屋の屋根に焼夷弾の破片と思われるものが落ち屋根をぶち抜いたのを覚えています。3歳の私がはつきりとその空襲の情景を記憶していたということは、非常に強烈な出来事だったのでしょう。



家族と逃げ隠れた防空壕

編集聞き書き

防空壕の場所を実際に見せていただきました。段々畑の下をくり抜いて作った防空壕。現在は、草が茂っていて中は見る事ができませんが、幅1.2メートルくらいの入り口で高さは2メートルほど。ツルハシなどで掘った自作の防空壕だそうです。中は意外と広く、8人家族が入っても余裕があったということ。蠟燭の光で過ごす防空壕での体験は、当時3歳だった清水さんの原風景のひとつです。



逗子の歴史今昔物語り / 沼間の地名誕生の由来

～三浦一族の依頼で沼浜の地にやってきた刀鍛冶の集団がいた～

▼名刀正宗のルーツ相州伝誕生の地が逗子

逗子沼浜の歴史を調べていたら、沼間藤源次と呼ばれる刀鍛冶の集団がこの地に移住してきたと記録にある。彼らは備前から三浦一族に招かれて沼浜にやってきた。そうか、それで沼間と呼ばれるようになったのか、と理解しました。

ところが、藤源次とは苗字で本名を藤源次助真という。そして三浦一族の防衛産業を担う武器製造業者として沼浜に根を下ろす。だから沼浜の藤源次。沼間は刀鍛冶の苗字ではないので「ぬまはま」がつまって「ぬまま」になったのか、「沼の間」が「ぬまま」になったのか、今ではわかりません。

いずれにしても、この沼間の地が三浦一族の武器を供給する刀鍛冶集団の工房が並ぶ場所だった。しかも、現在残されている5つの日本の刀鍛冶流派の中で「相州伝」と伝わるルーツがこの沼間。さらに沼浜の藤源次から孫弟子に当たる三代目の刀鍛冶が、あの名刀で知られる正宗なのです。



▼偽の正宗をパリで売って遊んだ逗子の貴族とは？

公家の家に生まれた西園寺公望は、明治から大正にかけて総理大臣や外務大臣など日本政府の要職を務めた人物だ。彼は幕末から頭角を現し、明治になると明治天皇のポケットマネーでソルボンヌ大学に留学。ところが遊ぶお金が足りない。同級生のクレマンソーとナンパするお小遣いが欲しい。で、日本からガラクタの日本刀を届けさせ、それを名刀正宗と偽りお金持ちに売りつけて遊ぶお金を作る。だから、現在もパリの骨董店には「公望正宗」なる日本刀が残されているそうです。

後にフランスと日本が第一次世界大戦で戦勝国になると、同級生のクレマンソーはフランス首相、西園寺は日本代表となり、2人は勝ち組トップとしてパリ会議に臨み、日本は莫大な戦勝金を得て領土も増える。

そんな西園寺が恋に落ちた「加代」という京都の芸妓がいる。しかし西園寺家は結婚を認めない。加代は西園寺と別れ、次に桂小五郎、続いて伊藤博文と恋をして、ついには三井高辰の妾となり6人の子を産んで当時最も贅沢な暮らしを実現した女性となる。一方の西園寺は生涯妻を娶らず、お妾さんと晩年を逗子で過ごす。モテるって大変ですね。

絵と文 三浦 恒義

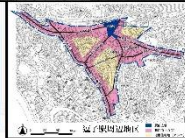


逗子駅周辺地区 商店街と景観から考えるまちの魅力

ワークショップ



逗子の景観まちづくり
2012年に逗子の歴史と文化のまちとして、昭和の風景を再現し、まちの魅力を高めるために「逗子駅周辺地区」を定められた。



2026年

9/5 [土] 13:00～16:00 12:45受付開始
発表会 9/26 [土] 10:00～12:00

景観ワークショップを実施しました

－逗子駅周辺地区－

横浜市立大学の地域課題実習として、逗子駅周辺地区においてワークショップを行いました。

学生さんと参加者がグループごとに分かれ、写真を撮りながら地域を散策した後、AIを活用しながら意見交換を行いました。

後日の発表会では、「商業地において歩行者目線から捉え直す逗子らしい景観」等について報告・提案がありました。このワークショップを通じて、逗子市における商業地の課題や魅力を共有し、今後の取り組みの方向性を考える貴重な機会となりました。

(まちづくり景観課)

瓦版編集担当 逗子市環境都市部まちづくり景観課

逗子市のホームページにも載せています。ご覧ください。

瓦版のバックナンバー・瓦版冊子は逗子市庁舎二階、まちづくり景観課窓口、市民交流センターに配架しています。